

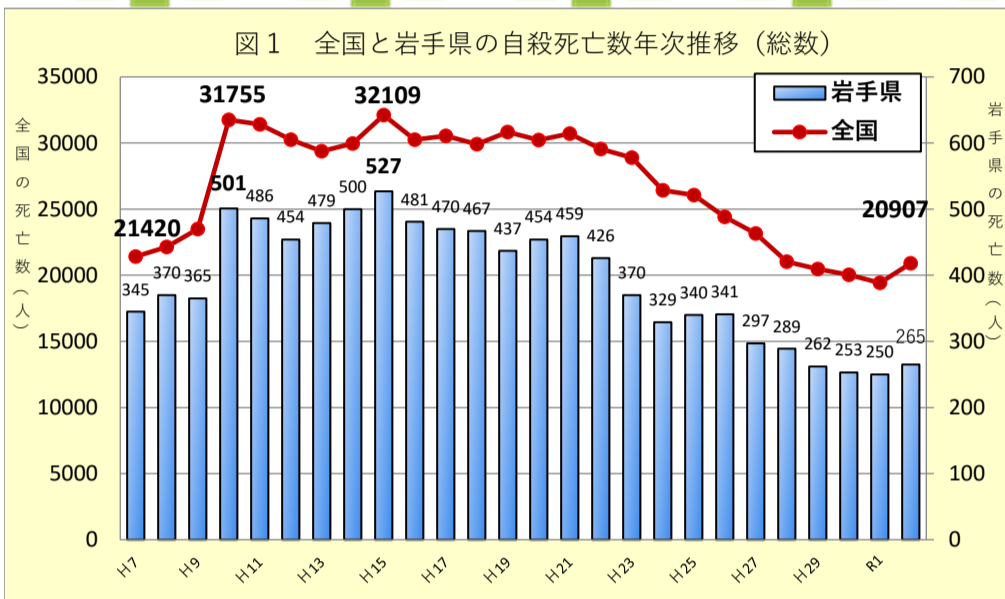


目で見る自殺の統計

厚生労働省が公表した令和2年人口動態統計（確定）によると、**全国で20,243人**の方が自殺で亡くなっています。これは**交通事故死（3,718人）の約5.4倍**にあたり、地域における重要な健康課題です。

岩手県は、常に都道府県別自殺死亡率ワースト上位にあることから、自殺対策は本県の重点課題として、県内各地域、関係機関において様々な取組みが行われています。

1 自殺死亡の年次推移

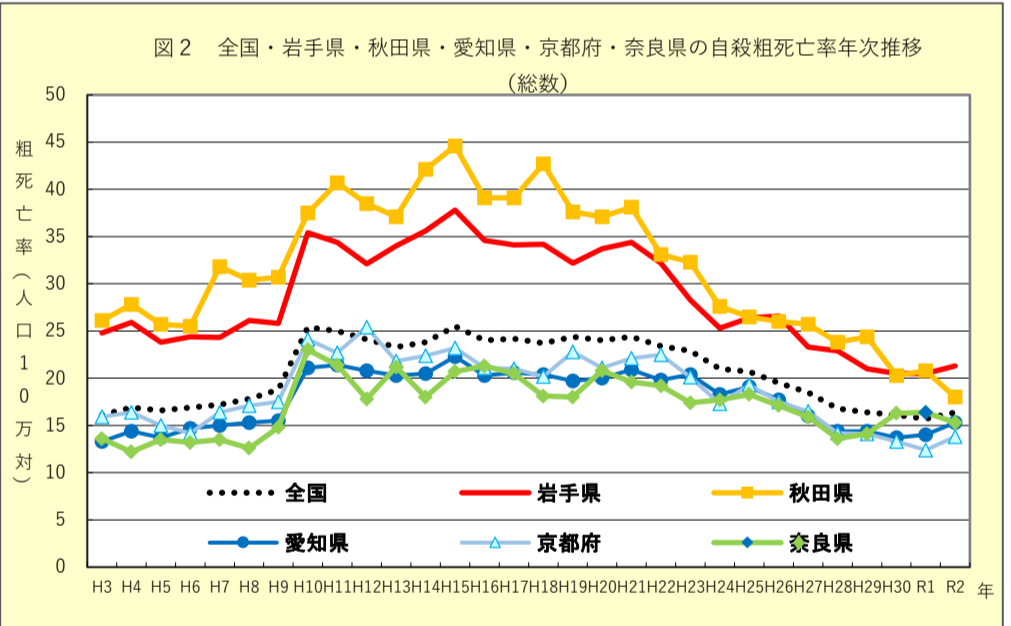


全国の自殺死亡数は、平成10年に急激な増加が見られた後、横ばい傾向となり、平成15年には過去最高の死亡数となりました。平成16年に減少に転じ、平成22年以降は3万人以下で推移しています。

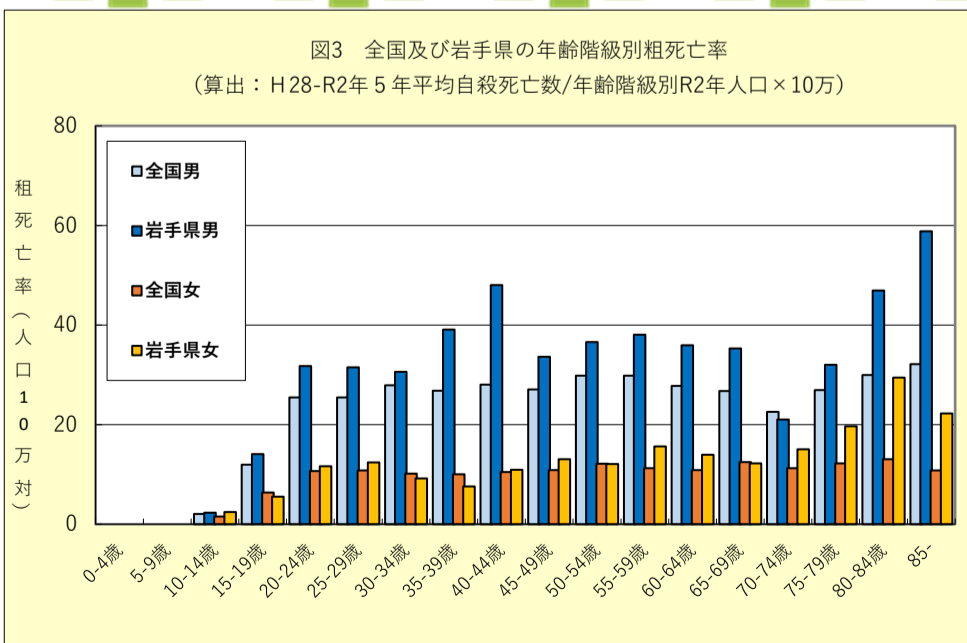
岩手県でも、平成10年に急増して初めて**500人を超え**、平成15年には527人の尊い命を失いました。その後、増減を繰り返しながらも減少傾向にあり、令和2年は265人でした。（図1）

全国の自殺粗死亡率は、平成15年にピークを迎え、その後は長期的な低下傾向にあります。

岩手県では、平成10年と平成15年に山を形成し、平成22年には減少に転じています。全国でも低率の京都府と比較すると、平成22年以降に差が小さくなっています。高率の秋田県との比較では、それまで高く推移していた秋田県の粗死亡率が、平成22年以降は両県にほとんど差がなく推移しています。（図2）



2 性別・年齢階級別の自殺死亡の状況

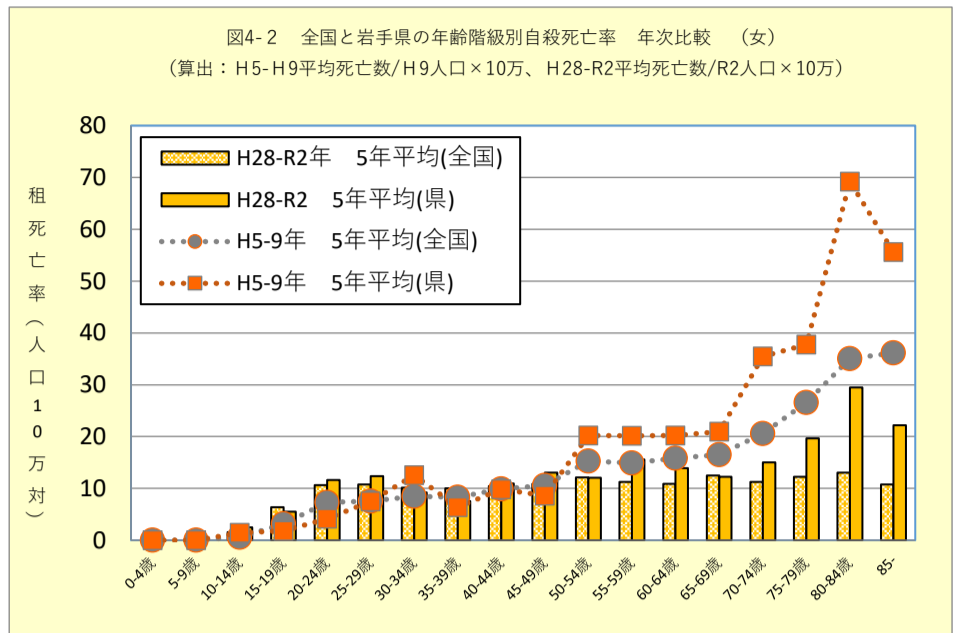
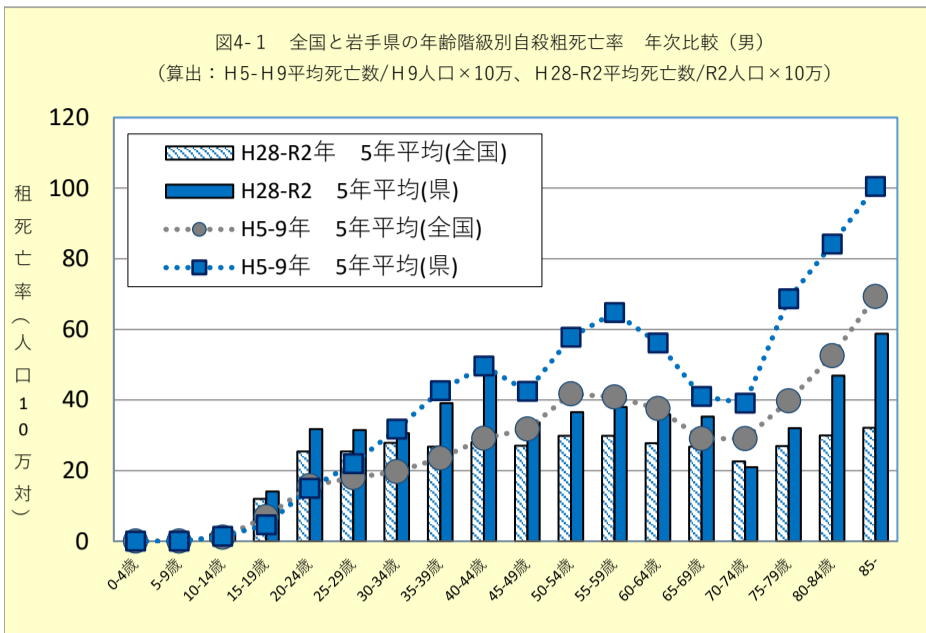


自殺死亡数の性比は、全国・岩手県とも**約7：3**で**男性に多い状況**です。

岩手県の年齢階級別自殺粗死亡率（5年平均）は、男性は、ほとんどの年代で全国を上回っています。女性は、40歳代までは全国とほぼ同率ですが、以降加齢とともに高率となっています。（図3）

自殺数が急増した平成10年を境に、前5年間と最近5年間の死亡率を比較すると、最近5年間では若年層で高率となっています。（図4-1、4-2）

自殺が急増した平成10年以降は、働き盛り世代の男性の自殺数が大きく影響
近年の若年層の死亡率の上昇も見逃せない



都道府県別に自殺粗死亡率を見ると、東高西低の傾向にあります。低率上位は京都府、奈良県、愛知県等であり、高率は岩手県、秋田県、青森県が上位を占めています。(表1-1、1-2)

表1-1 都道府県別自殺粗死亡率(人口10万対) ベスト5(ベストとは、自殺死亡率が低いことを言います。) 注)※同率

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1位	奈良県	京都府	石川県	石川県	福井県	奈良県	岡山県	徳島県	京都府	佐賀県
2位	福井県	香川県	岡山県	岡山県※	高知県	京都府	奈良県	石川県	鳥取県	京都府※
3位	徳島県	奈良県※	神奈川県※	佐賀県※	奈良県	愛知県	京都府	京都府	神奈川県	岡山県※
4位	広島県	長崎県※	福井県※	福井県※※	愛知県	鳥取県	愛知県	岡山県	愛知県	長崎県
5位	三重県	愛知・和歌山	佐賀県	奈良県※※	香川県	神奈川県	滋賀県	愛知県	石川県	沖縄県

表1-2 都道府県別自殺粗死亡率(人口10万対) ワースト5(ワーストとは、自殺死亡率が高いことを言います。) 注)※同率

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
1位	秋田県	秋田県	秋田県	岩手県	秋田県	秋田県	秋田県	和歌山県	秋田県	岩手県
2位	岩手県	新潟県	岩手県	秋田県	岩手県	岩手県	岩手県	青森県	岩手県	宮崎県
3位	新潟県	高知県	新潟県	宮崎県	宮崎県	新潟県	青森県	岩手県	群馬県	福島県
4位	宮崎県	岩手県※	島根県	新潟県	島根県	和歌山県	愛媛県	秋田県	新潟県	群馬県
5位	沖縄県	山形県※	群馬県	富山県	新潟県	青森県	福島県	福島県	山形県	青森県

県内の保健所別に最近5年間の平均死亡率(人口10万対)を比較すると、全ての保健所で女性より男性の死亡率が高く、二戸保健所管内が総数、男女別とも最も高い状況でした。

また、全国との比較では、男性では大船渡保健所管内以外が、女性では釜石、奥州保健所管内以外が全国より高くなっており、継続した自殺予防対策が必要です。(図5)

